

京都大学 宇宙学セミナー

宇宙人類学の挑戦：
文化人類学における近代・ポスト近代の再検討

神戸大学国際文化学研究科
岡田浩樹(文化人類学)

この報告の目的

1. 「宇宙人類学」ことはじめ

→シンポジウムと文化人類学の接点

2. 文化人類学の立場から、「宇宙への進出」が日本人にどのような意味をもつのかを考える

* この二つの目的を繋ぐNEWS

宇宙開発懐疑論の根底にある「日本文化論」「日本社会論」→私たちを拘束する「近代」

文化人類学者と宇宙

文化人類学の一般的イメージ

非西欧社会を中心に「未開社会」「前近代社会」(発展途上国)を研究対象とし、フィールドワーク(現地での長期住み込み参与観察)によって、個別の文化の様態を明らかにする分野

生存世界・認識の拡大と文化人類学の展開

- ・ 拡大する「人間の領域」を含めた「文化の研究」→Levi-Strauss
- 「人間とは何か」
- ・ 人類学の細分化
- ・ 20世紀前半の「総合人類学」Boas, F
- 人類の多様性
- ・ 19世紀 社会進化主義、未開社会、
- ヒューマニズム、自文化(西洋)中心主義
- ・ 18世紀以前 探検、未知の大陸への知的
好奇心
- 根底にある「近代性」の相対化

シビアナ人類(学)的課題

(成人version)人類専用ノアの方舟

ノアの方舟がもし人類専用であったなら、

そして100名しか乗せられないとしたら、

どのような人間・民族・文化的背景・・・、を乗せる???

消滅してもよい文化・社会・言語は誰が決めるのか

Cf.「もしも世界が100人の村であったなら・・・」

→現代世界の構造、矛盾、論争点が顕在化

現在の地球が直面している問題(globalization)

現代文化人類学の課題

1. 人間とは何か
2. 文化が異なる人間をいかに理解するか
3. 我々が属している社会・文化とはいかなるものが
4. 人類社会の多様性と共通性

異文化との遭遇・同調・それによる異化作用

「未知との遭遇」による認識の組み替え

Die Anthropologie (人間学)

→ Ethnology, Cultural (Social) Anthropology

ふたたび Anthropology へ

宇宙人類学の出発点

- ・ 人類学は「人類」全体を対象としているか？
- ・ 21世紀は、人類学の民族誌的現在たりえるか。
現代日本社会へのアプローチ
- ・ 人類という「他者」あるいは「自己」を理解するためには、宇宙からの視点が必要か？
- ・ (cf. Leach)
- ・ 文化人類学の知見、思考、方法が有効な問題領域「宇宙」(cf. astrosociology)
- ・ 現実的課題としての「宇宙」
- ・ 人類学的思考実験としての「宇宙」(人類の普遍性と多様性・個別性)

人類学と「人間学」

- ・ しかし、科学技術の人類学を超えた「総合人間学」
としての人類学の可能性
- ・ 加えて、科学系も含めた他分野との共同作業の
可能性
- ・ →人類学の細分化(自然・形質人類学との分離)

**ホリスティック(全体的・総合的)な人
類学的視点の復権**

宇宙人類学の課題

- ・ 直接的には、「科学人類学」の課題領域としての「宇宙開発技術」
- ・ 21世紀人類に影響を与える先端科学技術
- ・ 遺伝子工学 (ISP細胞、人ゲノム) → 家族・親族
- ・ 原子力とエネルギー関連技術 → 環境
- ・ 宇宙開発技術
→ グローバル化・コミュニケーション

宇宙人類学の問題領域

- (1) 認知科学、コミュニケーション領域
- (2) 社会的領域
 - ・ → 開拓領域。アンブレラ式プロジェクト
- (3) 文化的領域
- (4) 自然人類学との交差領域
- その他sub研究領域
 - 文化・世界観・宗教など
- 他分野との連携、複合的問題領域

宇宙人類学の問題領域と時間軸

- ・ 「過去」(民族誌、歴史)
- ・ 「現在」(生活世界Lebensweltの拡張)
- ・ 「将来」(リアリティの拡張)
- ・ 「未来」(人類学的想像力)

時間軸と関係軸

宇宙「の」人類学

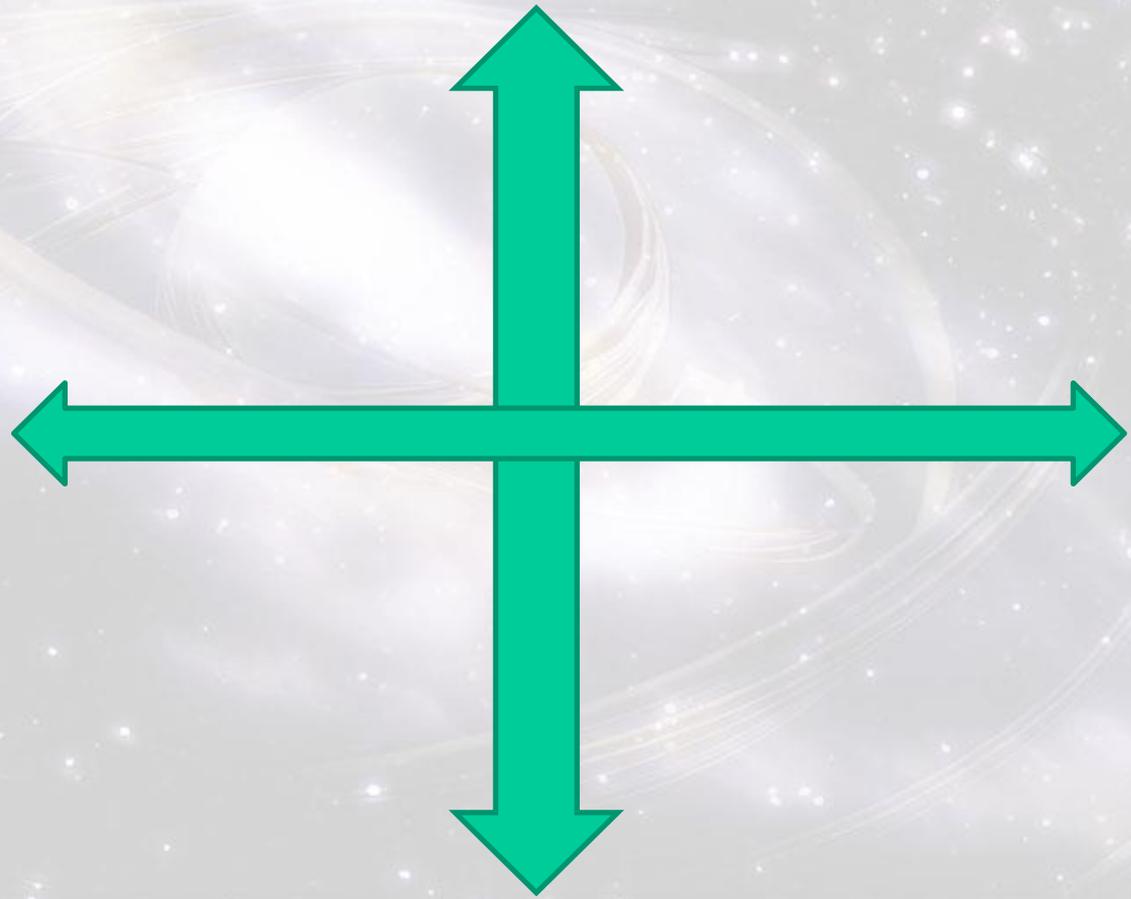
宇宙での人類学

宇宙と人類学

「過去」
(民族誌、歴史)

「現在」
(生活世界の拡張)

「未来」
(人類学的想像力)



人類学者による文化・社会の設計

- ・ 近代のリアリティに限定される想像力
cf. SF
- ・ ユートピアと社会・文化に関する想像力

宇宙人類学：多様なトピック・テーマの可能性

- ・宇宙観、世界観の組み替え
- ・宇宙における生活文化(衣食住)の問題
- ・高度知的生命体との遭遇による「人類」の相対化
- ・多様な文化的出自をもった人々との共存・共生
- ・新しい「公共性」「公共空間」の創造
- ・環境への適応：技術か、文化か、身体か(生命工学)
- ・宇宙における身体/身体技法(しぐさ)の変化
- ・宇宙におけるコミュニケーションの変容
- ・宇宙開発、宇宙移住を支える社会・文化的背景

- 宇宙ステーションの宇宙空間における多文化状況の問題、
- 宇宙空間における「文化の創造」の問題、
- 宇宙空間における身体変容や空間認識の問題
- 言語と非言語コミュニケーションの問題
- 宇宙科学技術における文化的基盤の問題、
例：ニューエイジサイエンス、ロシア正教とソユーズ
- 世界観・「宇宙観」の変化（グローバルという認識）人類の
多様性と標準化
- グローバルとローカル、ナショナリズムとコスモポリタリズム
合理性と非合理性をめぐる問題
- 宇宙における生活文化、生活技法の問題

一つの思考実験

- ・ 人類は地球から親離れできるか
- ・ 日本人は日本文化から親離れできるか
- ・ 親(地球上の人類、日本列島の日本人)はそのような子(地球外居住人類、日本人)を許容できるか
- ・ →新しい地球、世界、日本の「かたち」を想像(創造)できるか？

移民に向かない社会：現代日本？

- 海外移住の歴史
- ネットワーク構築の経験
- 結節点（エスニックタウンなど）の不在
- グローバル化の中でも海外移住に消極的（現代）
- 移住が生み出す文化の多様性に対する「寛容さ」
- 異質な隣人との間の「公共空間」「公共文化」構築（多文化主義／国際化）

私たちの想像力を拘束する
「近代社会のリアリティ」

地球外居住地における文化への想像力

SF, アニメーション、ゲーム
Ex. シムシティ、火星移住計画、
エンブレム・オブ・ガンダム

仮想現実社会：直近の現実に基盤をおいた想像力

→しかし、想像外（認識を超えた）状況が起きうる。

3. Modern city, Global city, Space city

宇宙コロニー、Space city(宇宙都市)
が生み出す「文化」創造の可能性とは何か

現在の宇宙のイメージ

は地球の生活世界のリアリティが根底。連続的に
とらえてよいのか？

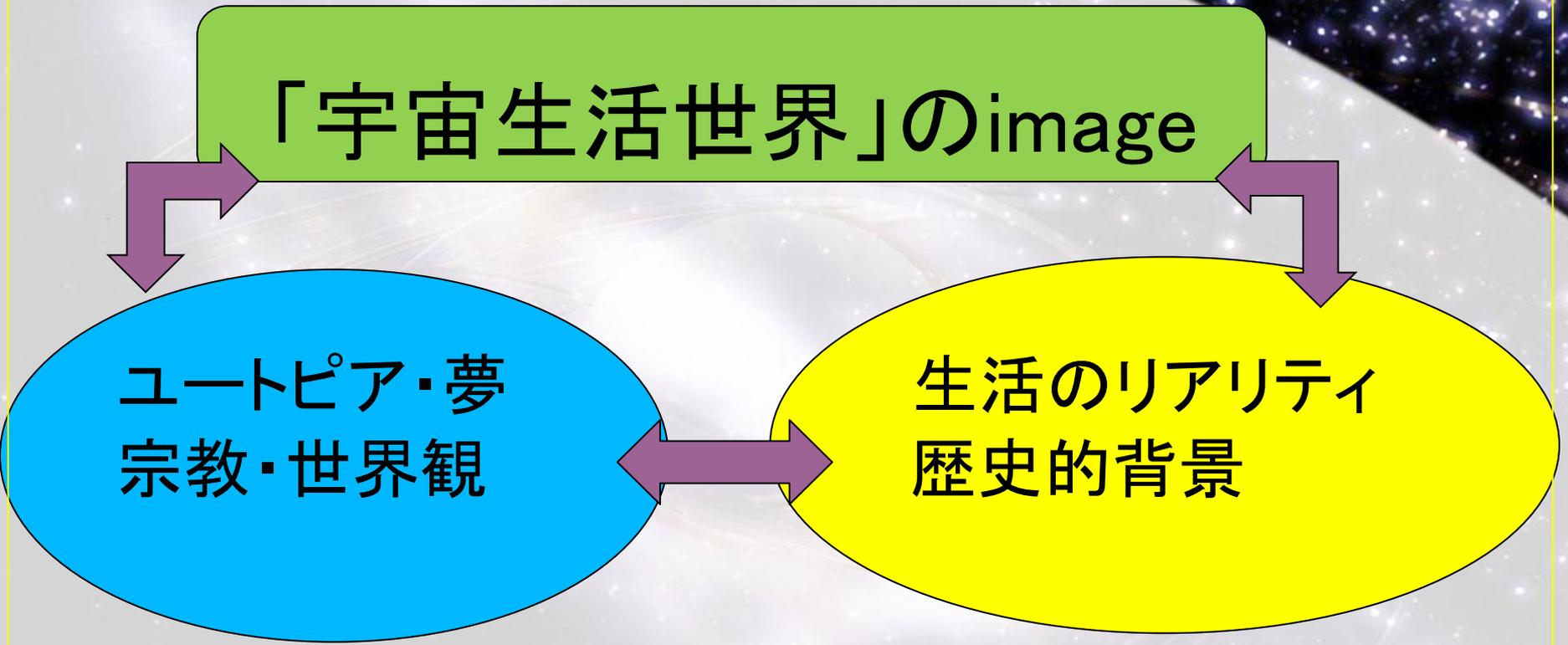
→移民・移住研究、空間人類学のアプローチ

宇宙という生活世界についてのイメージ

「宇宙生活世界」のimage

ユートピア・夢
宗教・世界観

生活のリアリティ
歴史的背景



歴史的に見た移民のタイプ

- ・ 農業移民(開拓)
- ・ 宗教移民

都市を形成

- ・ 労働移民(鉱山、建設)
- ・ 宗教移民
- ・ 軍事基地

新たな移住者:

(難民) 20世紀の難民は2,000万人を超える。
国境を越えた難民キャンプ

近代都市の展開

我々の宇宙コロニー、宇宙都市への想像力の基盤となっている「近代都市」がもたらしたものは何か

- 文化の多様性を標準化した近代
- 都市空間が人間(社会・文化・身体)を変えた。
- 近代文化生成の場としての都市
- 近代都市文化の基盤にある欧米文化

近代的社宅とスペースコロニーのイメージの類似性

「社宅」という近代思想

宇宙ステーション、スペースコロニーのあり方まで連続

カンパニータウン(苫小牧
鉾山町(秋田小坂、岐阜神岡、生野銀山など)
製鉄(釜石)
製造業(倉敷紡績)
植民地経営(樺太、台湾、大連(満鉄)、サイパン)

知取工場社宅街(樺太)配置図

出典:

社宅研究会 編著『社宅街－企業が育んだ住宅地』
学芸出版社, 2009年

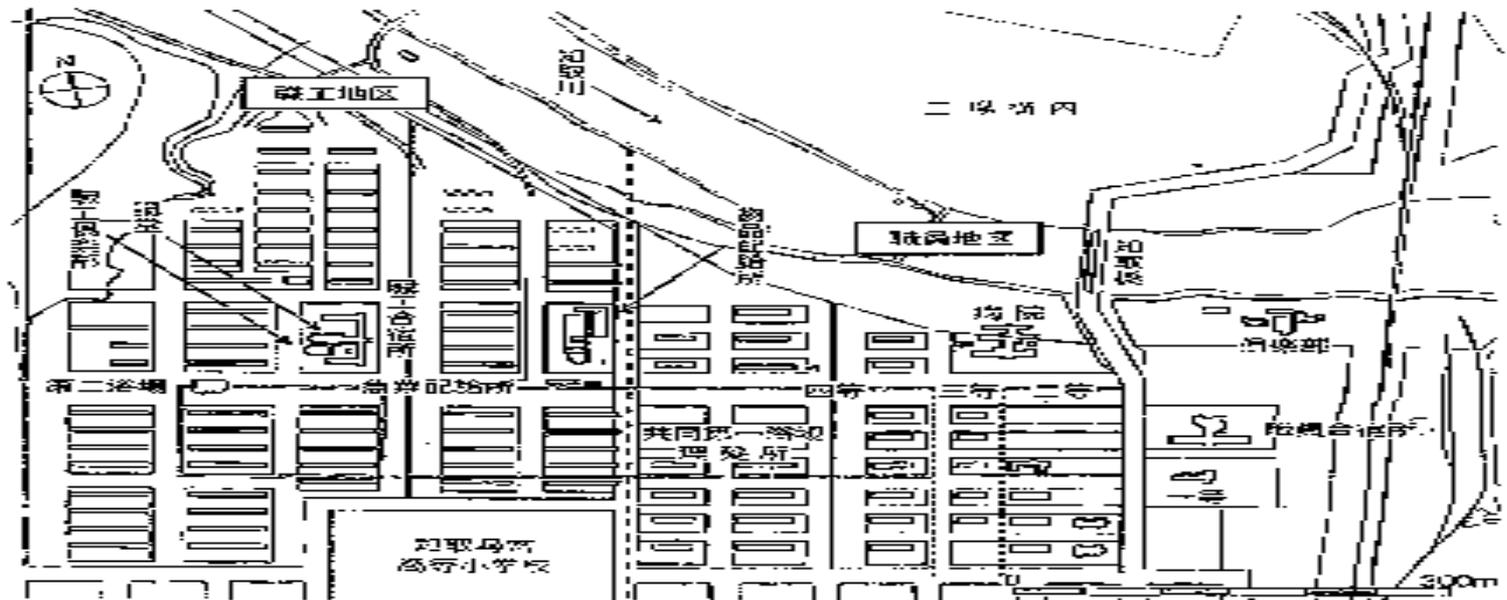


図3 知取工場社宅街配区図 (坂本清司氏提供。同、「アオモリ町地区」より作成)

社宅：住居＋福利施設（尾去沢鉦山社宅）

- ・保健衛生
（病院、共同浴場、理髪店、火葬場、共同墓地）
 - ・慰安・娯楽（劇場、集会場、図書館、農場、庭園）
 - ・祭祀（神社）
 - ・体育（柔剣道場、テニスコート）
 - ・必需品（精米所、倉庫、共同売店、露店市場）
 - ・保安・警察・消防
- ランドスケープ、公共施設、生産の場、住宅および維持管理の方法が総合的にデザインされている。労働効率を高め、生産力向上を図るための人工的な空間設計
- 近代：新たなcommunityとその文化のデザイン
- スペースコロニー・宇宙都市イメージへの連続性

高度成長期の団地とニュータウン

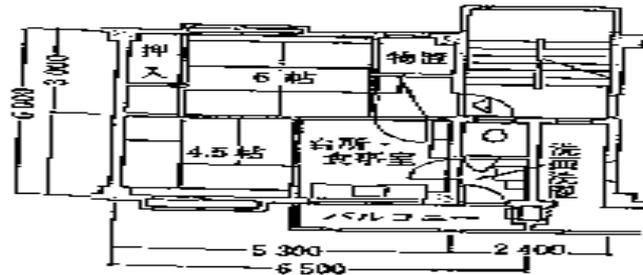


図1 1950年代の典型的な公営住宅標準設計2DK(浴室はない)

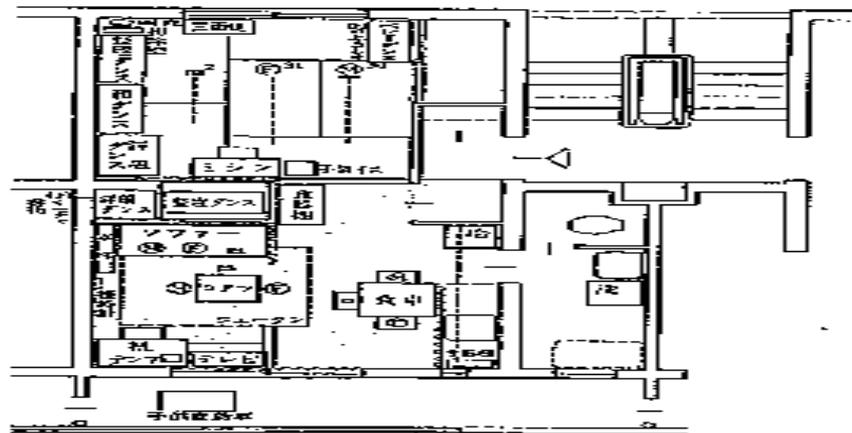


図2 イタノマ中心の生活タイプ。家族3人。1967年調査。東京(“集合住宅 住戸”による)

近代都市と新しい文化の生成

高度成長期(複合的な社会・文化変化)

- ・個人レベルのライフコースの変化
(誕生、育児、遊び、性と恋愛、結婚、余暇、
老後と死など)そして、家族形態、家族関係、家族文
化(ライフスタイル)の変化……
- 「続弥生時代の終焉」(山口昌伴)

均質化する社会・文化空間

→宇宙都市は近代都市のコンセプトを引き継ぐか？

グローバルシティとスペースシティの違い

現在のグローバル化；

合理性、効率性の原理

→文化的・社会的標準化、均質化

「市民社会」の成立

しかし、宇宙空間における「合理性」「効率性」は地球とは異なる。

近代が克服した時間と距離の問題が再現される。

新たなローカル性が発生する可能性（再ローカル化）

→グローバル化以前に戻る？

宇宙開発のもたらす多様性と地球

海外進出(ex.植民地支配)は、その対象だけでなく、その主体となった社会も大きく変化させる。

Ex.シャーロックホームズ、
日本の引き揚げ、
高度成長と戦前の大陸進出

過酷で、地球とは異なる環境が産み出す新しい社会
文化様式、

地球との距離が文化の再ローカル化と多様化をもたらす？

例；身体的な多様化の可能性

正常と「異常」もしくは障がいの区分

→標準的な身体が健康な身体となったのは近代になってから。

身体が多様性に対する不寛容さ

→人類が未解決な「人種」の問題

宇宙においては、これとは比べものにならない変化
が環境によって、あるいは人為的に起きうる可能性

これをどのように受け止めるか

近代文化(文明)の変貌？終焉？

- ・ 宇宙移住時代は、
ポスト近代の想像力、構想力を必要とする。

「役に立つか」の基準は、
今の時点、この場所、に限った有効性
→ 過去、現在の認識(経験)に拘束される「価値」
「評価」の限界。

数世代のスパンで取り組む課題については
現在の我々の価値観を相対化し、
新しい価値観・世界観の創造の可能性も含め、
検討すべき

宇宙人類学の第一の挑戦挑戦

- ・ 日本文化人類学会研究懇談会
「宇宙人類学研究会」(2012年～)
岡田浩樹・木村大治・大村敬一編2014
『宇宙人類学の挑戦』昭和堂
- 現在進行中のプロジェクト(社会フェイズ)
- ・ 宇宙ツーリズム研究
- ・ 宇宙関連産業中小企業における「技」の伝承と高度技術
- ・ 宇宙基地と地域社会
- ・ 宇宙開発とメディア(NHK アーカイブス)
- ・ 宇宙開発者に対するインタビュー(ライフストーリー、
多声的証言:JAXAとの共同project) cf.NASA

おわりに: 人類はなぜ宇宙へ行くのか

- ・ 文化人類学者一個人としての回答

「新たな社会と文化の可能性のために」

(次世代人類の可能性のために)

- ・ 我々が生きる近代社会・文化を対象化、再検討

人類は文化を産み出すことで、多様な環境に即座に適応し、繁栄してきた。

今日、近代社会・文化がある種の行き詰まりを迎えているのならば、既存の価値観、意味の体系、パラダイムを根底から変えるような「新たなフロンティア」への挑戦が必要。



ご静聴ありがとうございました。

宇宙人類学のサポーター募集中

**<http://www.cspace.sakura.ne.jp/firstsite/>
hokada@kobe-u.ac.jp**